

**重度障害児教育総論レポート課題**  
**テーマ：「開かれた学校」と障がい者**

問い：障がい者の学びに対する意欲はどのように受け取られているのだろうか。

1. はじめに

授業の中で重度障がい者の教育やその後の生活や進路を知っていく中で、「開かれた学校」というキーワードが頭に浮かんだ。そもそも「開かれた学校」とは、家庭や地域社会と連携・協力する学校のことを指す。具体的には、2007年7月の中央教育審議会答申での、学校は保護者や地域の人々に、自らの考えや教育活動の現状について率直に語るとともに、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分に聞くなどの努力を払う必要があると述べられていることなどがある。

私は、「開かれた学校」の中に障がい者がどのように存在しているのかについて気になり、調べていった。調べを進めていく中で見つけた一つの記事について、特別支援コーディネーターをしている母に話していると、その記事に載っている方を知っていた。

2. 中山さんの例より

中山さんは、熊本学園大学に現在も通っている4年生である。中山さんは脳性麻痺がある。脳性麻痺とは、「受胎から生後4週までの期間に生じた脳障害に基づく、永続的な、しかし変化する運動および姿勢の異常である。<sup>1</sup>」と定義されており、脳性麻痺は脳の損傷により、運動機能や感覚機能、言語や記憶、思考などに関する高次機能が障害されるものだ。中山さんはそのなかでも重い脳性麻痺であり、トイレや食事など全介助を必要としている。中山さんの母親の、「地元地域で過ごしてほしい」という強い思いと、支援学校に行きたくないという本人の希望のもと、小中と地元の学校へ進学をした。当時特別支援コーディネーターをしていた秋山さんは、「地域的に人権教育が盛んで、学校長も含めて『ともに』という空気があった。」という。私はここに「開かれた学校」を感じた。

その後、普通高校への進学を目指すのが、義務教育でもなければ支援学級も設置されていない学校のハードルは高いものであった。希望をした公立のF高校は斜面に校舎が建っており、エレベーターもない。しかしF高校に行きたいという本人の希望は強いものがあつた。自分でパソコンで打った手紙を持参し、緊張で汗がただただになりながらも、自分の声で読み上げた。教員による代筆での受験が認められ、中山さんは入学をすることができた。ここで中山さんの強い意志はもちろん、本人の意思があれば合理的配慮が義務付けられるという障害者差別解消法が翌年に迫っていたことも関係していたのではないかと母は話した。支援員の配置や、学校設備、テスト時間の延長などの合理的配慮がなされていった。(この障害者差別解消法はインクルーシブ教育の普及を目的としたものであるが、国公立は合理

的配慮が法的義務となっている一方、私立は努力義務となっている。)

ここで、次の進路をどうするかについてたくさんの話し合いを重ねたと母は言っていた。話し合いののち、障害のある学生が多く在籍する熊本学園大学への進学を希望した。強い思いをもって学習に励み、見事合格を勝ち取った。進学が決定して、母も含めたこれまで中山さんに関わってきた教員や福祉サービスの専門家、市の担当員との話し合いが幾度も行われた。自宅から通うことやトイレや食事、授業の受け方など課題は山ほどあった。しかし、学校間だけでなく、市やその他の専門家などたくさんの人の知恵を合わせることで、完璧まではいかないかもしれないが、「大学生活を楽しく送ることができている」と中山さんは言う。まさに、「家庭や地域社会と連携・協力する学校」という「開かれた学校」が行われている例ではないだろうか。地域に限らず、県をまたいでなされていることにも感銘を受けた。

### 3. まとめ

今回は、母のつながりがあったことをきっかけに中山さんの実例をもとに「開かれた学校」と障がい者について述べた。調べる前、私は「開かれた学校」は理想論でしかないと思っていた。しかし、この記事を見つけてあたたかい気持ちになった。一人の学びたいという意思をもった子どもを、大切な存在としてたくさんの大人や機関が動いているということを知ることができたからだ。また、「開かれた学校」は卒業する学校から進学する学校間と地域の人で構成されるというイメージから、卒業校全体や地域機関全体で、時には県もまたいで、みんなで構成されているという発見もあった。このような実例もあるが、やはり障がいのある人みんなが意思通りに進学するという現実ではないということも分かる。『高校、大学進学を実現し「福祉や教育を含めた制度や環境のありがたさ」を感じる半面、「地域によって差があり、誰でも同じような機会を得られるとは限らない現実」も痛感する。<sup>2)</sup>』授業で、障がい者の意思尊重についてさまざまなディスカッションテーマに基づいて考えてきたが、きちんと本人の意思を知ること、その意思をどのように伝えてもらうか、そしてその意思をどう反映していくかについて、授業内容を思い出しながら考えることができた。(2002 文字)

#### 【参考文献】

- ・<sup>1)</sup>：重度障害児等の学校生活 [特別支援学校における介護職員等によるたんの吸引等（特定の者対象）研修テキスト（mext.go.jp）](#)（閲覧日：2023.1.1）
- ・<sup>2)</sup>：西日本新聞 [車いすの大学生活、善意と制度が支え ヘルパーやサポーターどう確保 | 【西日本新聞 me】（nishinippon.co.jp）](#)（閲覧日：2023.1.1）
- ・西日本新聞 [「勉強したい」重い脳性まひ、熱意で開けた高校進学の道 | 【西日本新聞 me】（nishinippon.co.jp）](#)